

商品ラインナップ

Commercial Vehicles (CV)

● 小型～大型トラック

いすゞのトラックは物流業界の様々な課題に対応するため、優れた経済性能とともに信頼性、耐久性そして先進の安全性や環境性を追求した製品を国内外で展開しています。

● バス

公共交通機関として毎日の人々の移動や暮らしを支えるバスは安全性や快適性、環境性が求められています。いすゞのバスは日野との合併企業であるジェイ・バスで生産され、いすゞ、日野の両ブランドで日本全国で販売されています。



小型トラック ELF

ELF EV

中型トラック フォワード



大型トラック ギガ

路線バス エルガ

Light Commercial Vehicles (LCV)

ピックアップトラックは新興国を中心に展開しています。乗用車としてだけでなく商用車としても使用できる貨客兼用車として、主にタイで生産された後、約100か国に輸出され新興国の経済成長と暮らしを支えています。



ピックアップトラック D-MAX



PPV MU-X

After Sales Service

稼働を最大限に確保する様々なサービスを国内外で展開しています。

● コネクテッドサービス

MIMAMORI(みまもり): 運行管理サービス

PREISM(プレイズム): 高度純正整備

● 販売会社による整備事業

● リース事業

メンテナンスリース

ファイナンスリース

メンテナンス受託

● 中古車販売事業



MIMAMORI



PREISM

Powertrains

ディーゼルエンジンを建設機械、農機、発電機、船舶といった様々な分野のメーカーに供給しています。車載用で培った動力性能や環境性能を備えるディーゼルエンジンはこれら産業の発展に貢献しています。



4LE2X



UM6HK1



At a Glance

事業展開

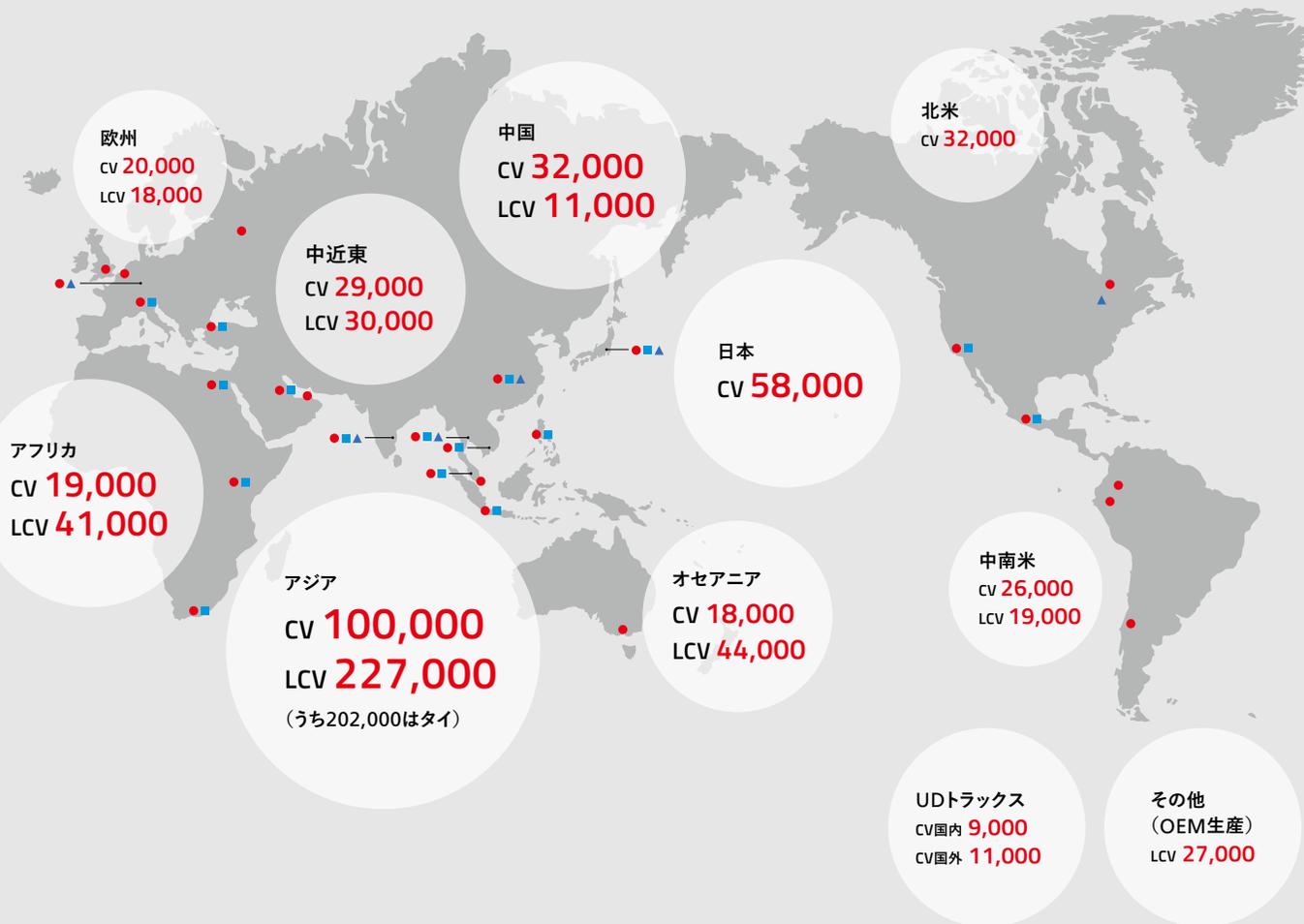
150か国以上

シェアNo.1国数※1

37か国

グローバル販売台数※2

77万台以上



● : 販売台数(2023年3月期実績)※2 ● : 販売拠点 ■ : 製造拠点 ▲ : 開発拠点

CV (Commercial Vehicles): 小・中・大型トラックおよびバス
 LCV (Light Commercial Vehicles): ピックアップトラック(海外生産車)

※1 2022年暦年実績(2022年1月~2022年12月)

シェアNo.1国の詳細はHPをご参照ください。 <https://www.isuzu.co.jp/company/glance.html>

※2 KD出荷・現地組立による販売台数を含む

創立

1937年4月9日

資本金

406.44億円

売上高

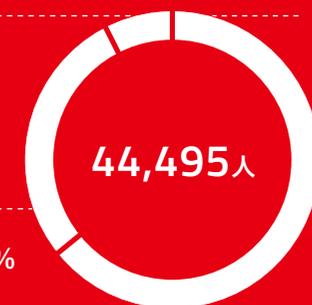
その他
31%

北米
8%

地域別従業員数

その他
7.3%

アジア
28.5%



日本
31%

アジア
30%

日本
64.2%

※3 連結: 3,195,537百万円、単体: 1,306,768百万円

「運ぶ」の進化を支え続けてきたいすゞ

1950年代—

輸送長距離化による大型トラック需要と、
中小企業層の小型トラック需要増加

● 多様なラインナップへ ～小型・大型トラックへの進出～

5t・6tといった中型トラックが主力製品だったいすゞも貨物輸送量拡大・長距離化に伴うニーズ変化に対応すべく、1959年にTD型8tトラック、TL型2tトラック「エルフ」を発表。大規模法人系と中小企業で二極化する需要に多様なラインナップで応えました。特に日本の狭い国土、狭い道路で「最も効率よく荷物を運ぶ」というニーズに応えた小型トラックの初代エルフは、現在に至るまでいすゞの代名詞になっています。



TL型小型トラック「エルフ」

- 1959 TD型8tトラック、TL型小型トラック「エルフ」発表
- 1961 藤沢製造所(現藤沢工場)第1期工事竣工・開所

1960年代—

アジア・新興国における
耐久性の高い輸送手段へのニーズ

● グローバルでの顧客基盤拡大 ～各国・地域のニーズに沿った商品提供～

海外でも、1966年にタイに泰国いすゞ自動車(IMCT)を設立。さらに1971年には米国GMと提携し、アジアだけでなく、北米やアフリカなど世界各地に拠点を広げました。進出先の各国・地域において、特有のニーズや車両・エンジンの耐久性や走破性といった課題を的確に捉えた商品づくりを行うことで、各地の物流網の発展に貢献しながら、世界トップクラスの商用車メーカーへ成長しました。



KB型ピックアップトラック「ファスター」

- 1966 泰国いすゞ自動車(IMCT)設立
- 1971 GMと全面提携に関する基本協定書に調印
- 1972 KB型ピックアップトラック「ファスター」発表

1990年代—

燃費・ランニングコスト低減と
安定運行への需要拡大

● 効率的で安定的な車両運行を支える 稼働サポートサービス

車両輸送量の拡大に伴い、燃費などのランニングコスト低減と安定運行へのニーズが高まりました。1990年には富士通と合弁で株式会社トランストロンを設立し、電子制御の高度化に早期から着手します。さらに2004年には国内初の商用車テレマティクス「みまもりくんオンラインサービス」、2015年には高度純正整備「PREISM」を提供。他社に先行するコネクテッドサービスを活用し、輸送の効率化や安定稼働に貢献しています。



PREISMイメージ

- 1990 富士通と合弁で株式会社トランストロンを設立
- 2004 商用車用テレマティクス「みまもりくんオンラインサービス」発売開始
- 2015 高度純正整備「PREISM」の提供開始
- 2022 商用車情報基盤「GATEX」提供開始

2000年代—

カーボンニュートラル、CASE、先進安全…
多様化する「運ぶ」のニーズ

● アライアンスの深化 ～顧客ニーズに応え続けるために～

「運ぶ」のニーズが絶えず変化してきた中、社会とお客様の要望に応えるため、各時代で様々なパートナーとも協力しつつ、最適な技術・製品・サービスを生み出してきました。カーボンニュートラルや「CASE」、先進安全といった次世代の課題解決が求められる現在も、多様なパートナーとのアライアンスやお客様との協創活動を通じ、オープンイノベーションにより諸問題の課題解決を図っていきます。



アライアンス先との共同開発／実証実験中の車両

- 2019 カミンズとパワートレイン事業に関する包括契約締結
- 2020 本田技術研究所と燃料電池大型トラックの共同研究契約締結
- 2020 ボルボ・グループと戦略的提携に関する基本契約締結
- 2021 日野、トヨタとの共同出資により商用車事業CASE化加速に向けた新会社 Commercial Japan Partnership Technologies 設立